

優秀賞

知恵のリレーシステム ～次の世代へ～

小玉 亮 (大学4年生：福岡県)

現代日本に於いて、高齢社会に伴う様々な政治的問題が取り上げられていますが、それらの多くは大半の人間が直接的に解決することが出来ません。

この場で私が提案するのは、若年層がもっと直にご年配の方の傍に寄り添い、別の角度から高齢社会に向き合うことを目指すシステムです。

ご年配の方は多くの知識・知恵をお持ちの筈です。しかし現在、伝統工芸の後継者不足や、孤独死問題のような“高齢者の社会的隔絶による、知恵の断絶”が見られます。この事象に限った話ではありません。盆栽や着付け等、祖父母たちから若年へ受け継がれないまま消えていく知識は、私たちの身の回りに沢山あることでしょう。これらは実に勿体ないことです。そこで、こうした知識を若年層に伝授する機会を少しでも増やすべく、ネットを活用したツールを提案します。

ご高齢の方は自分が伝えたい知恵を、「知恵袋」という入力フォームに書き込みます。大まかなカテゴリに分類し、その知恵に対する自分なりの拘りや経験等を中心に記します。ここで重要なのは“情報の独自性”です。特産の農産物の育て方や、地方の舞踊の振り付けでも構いません。人間の不在によって消えゆく文化の、生き残る道をライブラリとして確保するのが大事です。

そして若年層は、興味のある知識を読み、その文化を引き継ぎます。ここで更にルールを加え、知識の投稿者に何かしらの反応を返すことを前提とします。コメントを返しても良いですし、いいねボタンを押すことでも大丈夫です。投稿者に“誰かに読んでもらえた”と実感させることが大事です。多くの知識を読む人には、実績として個別ライブラリをまとめられる様にするとう分かり易くなると思います。

高齢社会の一番の問題は「人間が高齢者として社会に関与できなくなること」です。日本の情報技術を生かし、もっと若者と高齢者の距離を縮めることが、私たちにできる新たな解決法となりうると思います。